

新学期が始まり、子どもが学校生活に慣れてくると、友達を自宅に招いて遊ぶ機会も増えてくる。親としては気の合う子ができてうれしい反面、「部屋が散らかる」「騒がしくなる」など負担に感じることもあるだろう。どうすれば快く迎えられるか、専門家に心構えなどを聞いた。



「子どもが徐々に親から離れ、友達と過ごす時間が長くなるのは成長の証し。他者と関わる様子を見られる貴重な機会と捉えましょう」。甲南女子大准教授の松井愛奈さん(発達心理学)は助言する。

その上で、我が家で遊ぶときのルールを決めておくことが大切だ。例えば、「友達を招くのは週2回まで」「親の部屋に無断で入らない」「午後5時になったら片付けをして帰る」など。よその家に行った時、その家庭に約束事があると理解するきっかけにもなる。その際は、親の都合を一方的に押し付けるのではな

友達招くルール作ろう



マナー理解のきっかけに

く、子どもと一緒に決めるようにする。どのように行動すればいいか、子どもが主体的に考えることができ、ルールを守る意識も高まる。「『よその家では、こう振る舞ってほしい』と思うことを基準にしましょう」と松井さん。

低学年のうちには、親の在宅時に招く方がよい。急な病気やけがなどに、子どもたちだけでは対応が難しいからだ。相手の親の連絡先を事前に聞いておくのもよい。面識がない場合は、友達帰るときに電話番号やメールアドレスを書いた手紙を託したり、家まで送り届けてあいさつを交わしたりするのも一案だ。

遊びの最中はあまり干渉しないよう心がける。親が立ち入ることで「子どもだけの世界」が壊れてしまうこともある。少し距離を置き、危険なことなどをしていいる場合に声をかける程度で十分という。

その場で指摘

マナーが悪かった子など、親が家に招きたくない友達もいるだろう。それでも、名指しで悪口を言った

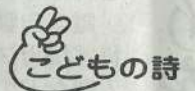
子どもの友達を家に招く際の注意点

- 家で遊ぶときのルールを決めておく
- 低学年のうちには、親の在宅時に招く
- 友達の親の連絡先を事前に聞いておくのもよい
- 干渉せずに遊びを見守る
- 友達のマナーが悪いときは、その場で伝える

※松井さん、守安さんの話を基に作成

干渉し過ぎず 成長見守る

親の心構え



こどもの詩

せんせいへ

斉藤 雪乃

せんせい いままでたくさんしかってくれてありがとう。これからも ときどきゆめにできてしかってね

(埼玉県鳩山町・鳩山小1年)

◇ 幼稚園の先生へ。しかるだけでいいのかな。(平田俊子)

を我が子に相談し、対応を一緒に考えてもよい。その時は、「〇〇君は元気にあいさつしてくれる」「片付けはちゃんとしていた」など、その友達の良い面も挙げる。反発心を抱きにくいという。

友達のマナーが悪くても、「他人の子には直接言いくい」と気を使いがちだが、守安さんは「イライラをため込まないためにも、その場で伝えることが大事」とアドバイスする。説教するように叱ってしまうと、子ども同士の関係を崩すことになりかねない。「やめてほしいことを端的に伝え、行動を改めてくれたら『ありがとう』を忘れずに。互いが心地よく過ごせる環境をつくり、子どもたちの成長を優しく見守りましょう」